

I. 銃（ピストル、ライフル）の安全な取り扱い

射撃をおこなう者は、射撃を楽しむ前に先ず安全について学び、銃の安全な取り扱いが自然と出来るようになることが必要です。

デジタル・ピストルやビーム・ライフルといった光線銃は弾が出ませんが、この「安全な取り扱い」を身につけることは、あなたが将来けん銃やライフル銃を持ち、国民体育大会やオリンピックなどの競技会に参加するときに、必ず必要なこととなります。

【取り扱いの要点】は、

銃は、いつでも安全に取り扱われなければならない。

- ① 射撃場で、 ② 射撃中はもちろん、 ③ 射撃終了時、
④ 運搬の際、 ⑤ 保管場所で、 ⑥ その他で

「銃刀法」にいわれ、（社）日本ライフル射撃協会が何よりも優先させて唱導している危害予防について分かりやすく記しましたので実行してください。

II. 銃（ピストル、ライフル）の安全な取り扱いのガイド

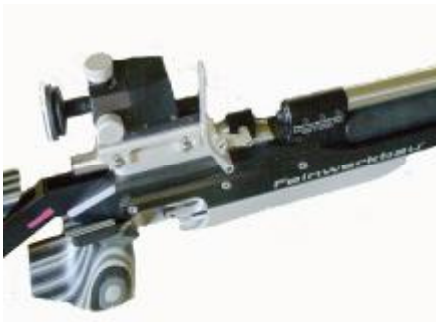
** 銃は、いつでも安全状態でなければならない**

「銃の安全状態」とは、弾が発射できないことを誰もが外観から分かるようにしてあることです。

- ① エア・ライフルなど弾の出る銃の安全状態は、弾を抜き、装てんラッチ、蓄気レバーまたはボルトを開放した状態をいいます。

※ 自動式では、スライドを後部で固定する。弾倉付きの銃は、弾倉を外す。

- ② デジタル・ピストル、ビーム・ライフルの安全状態は、電源を切り、装てんラッチまたはボルトを開放した状態です。



1. 射撃場での安全管理

- ① 銃を射撃場に持って行き、ケースから取り出した時は、すぐに安全状態にする。
- ② 他人の銃に触ってはいけない。また、自分の銃を他人に渡してはいけない。
- ③ 銃は人に対して、人がいるかもしれない方向に対して絶対に向けてはならない。
- ④ 射座の前方に人がいる時は、銃に触れてはいけない。
- ④ 銃を取り扱うときは、常に銃口を下方に向ける。
- ⑤ 空撃ちの時は、常に安全な方向に向けて行う。
- ⑥ 発射するとき以外は、用心鉄の中に指を入れたり、引金に指を掛けない。

2. 射撃中の安全管理

- ① 射撃場では、常に射場長の指示、号令に従う。
- ② 次の場合はすぐに安全な状態にする。
 - ・射撃中に、銃を机やテーブルの上に置く時
 - ・緊急事態の時（火事や地震など）
 - ・銃が故障した時
- ③ 射撃線より前に出る時は、射場長の号令に従う。
(射場長は、射座にあるすべての銃が安全状態で机やテーブルの上に置かれていることを確認した後に号令をかけます。このため、選手は自分の銃が安全状態であることを、射場長に判るようにしておかなければなりません。)
- ④ 銃の故障や、自身の体調が不良と思う時は銃を安全状態にして、机やテーブルに置いた後に射撃場の管理者に連絡する。
(決して、射撃を行っている最中に、問題を修正しようとしてはいけない。)
- ⑤ 競技中、一時的に射座を離れる時であっても銃は安全状態にしてケースに入れる。

3. 射撃終了時の安全管理

- ① 射撃を終了したときは、すぐに銃を安全状態にする。
- ② 銃をケースに入れるときも、安全状態であることを確認する。
- ③ デジタル・ピストル、ビーム・ライフルは、電池・バッテリーを抜く。

4. 運搬での安全管理

- ① 銃や弾の運搬中は、常に安全と防犯に注意を払う。
- ② 射撃場への移動は、寄り道をせず、速やかに行動する。
- ③ 乗用車の場合、銃は必ずトランクに収納して外部から見えないようにする。

5. 家などの保管場所での安全管理

- ① 鍵がかかる保管庫を設置し、銃を保管する。デジタル・ピストル、ビーム・ライフルも専用の保管庫で保管するようにする。
- ② 自分以外の人間が触れることができないようにしてあることが「保管」である。
- ③ 銃と弾は別の保管庫で保管すること。
- ④ デジタル・ピストル、ビーム・ライフルは、常に電池を抜いた状態で保管する。

6. 一般的な安全管理のポイント

- ① 銃の修理や大きな分解掃除は、購入した販売店に依頼する。
間違った技術や誤った取り扱いが重大な事故と傷害を起こします。
- ② 銃砲の所持に関する法令・規則をよく勉強し、身につける。
競技者にとって『ライフル射撃競技 規則集』も必携の書です。
- ③ 銃の性能と構造を知る。

7. 安全管理に関するその他のポイント

- ① あなた自身や友人が銃を扱うときに危害予防に反する軽率な行為にでるようなことは、厳に戒め合わなければならない。
(大きな事故でも、たった一つの軽率な行為から、ほんの一瞬に起きるものです。)
- ② 偶然の出来事によって事故が起こることも考えておかなければならない。
(偶然に銃が倒れることで、弾が発射されてしまうことも考えられます。)
- ③ 安全な取り扱い手順を学び、繰り返すことによって、安全な手順が習慣化して身に付くようになる。
- ④ もし誰かに危害予防や安全管理について、注意や忠告をされた時に、おせっかいだと思ったり、不満を感じたら、あなたは銃を扱う資格がない人間である。